



子ども食堂支援に特化した 「ふくおか筑紫フードバンク」



協働期間

平成28年7月～ 継続中



協働のパートナーと役割分担

行政	大野城市子ども部子ども未来課	補助金交付、市ホームページでの広報、紹介、規約・対外文書の作成支援
NPO	ふくおか筑紫フードバンク運営委員会（事務局 特定非営利活動法人チャイルドケアセンター）	食材等の寄附者の開拓、食材の寄附の受付/管理/分配、各会議の運営、ホームページ管理、運営資金の調達
企業	西松建設株式会社	冷蔵・冷凍庫の保管場所の提供（電気代負担）、子ども食堂の会場として社員寮の食堂を提供等
	エコープ生活協同組合	食材保管場所の提供、食材の寄附、食材寄附者の紹介、食の安全管理に関するノウハウ提供等
	協力会員一同（17 企業 1 団）	食材の寄附



背景と課題

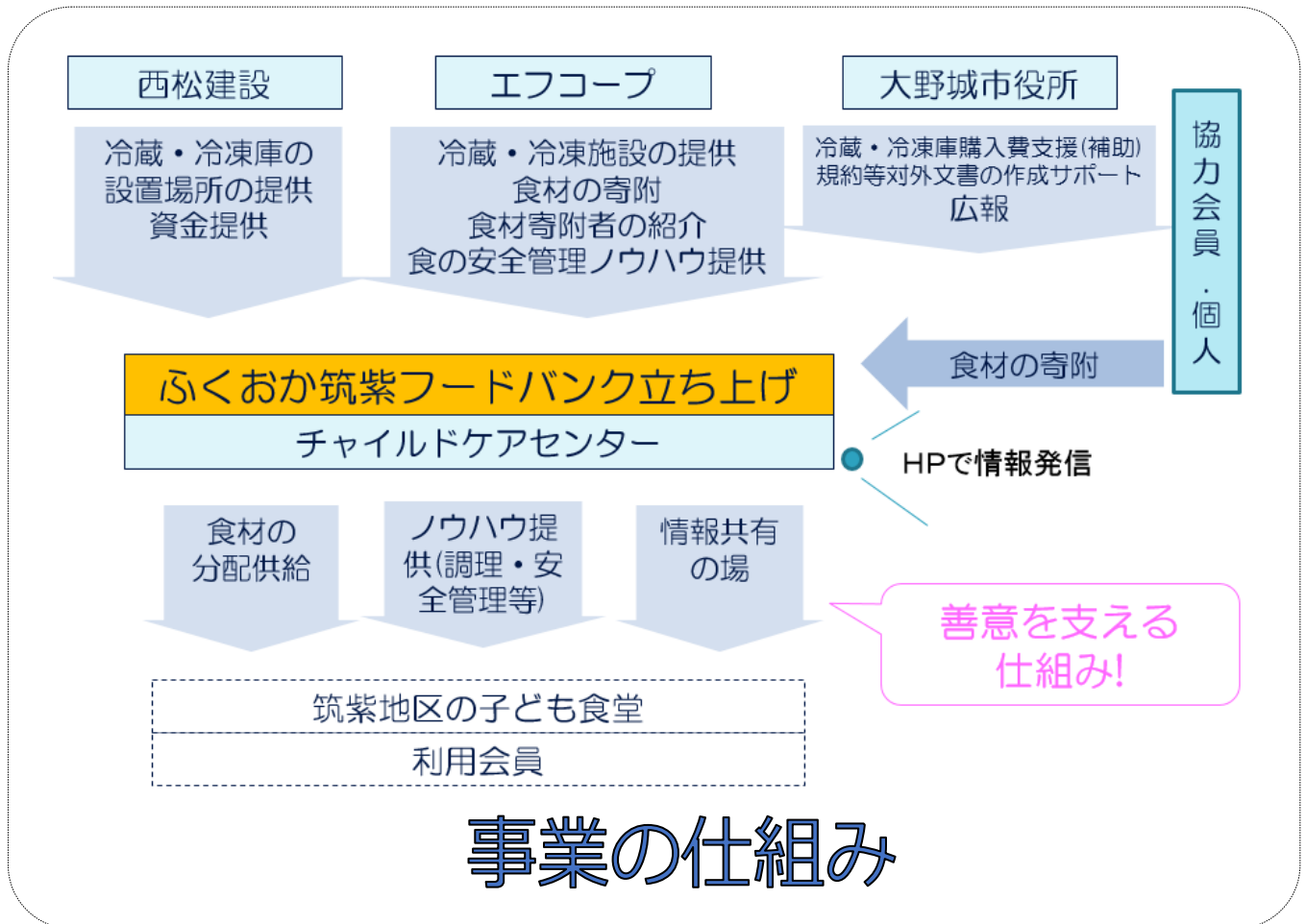
貧困世帯の増加のみならず共働き世帯の増加や、地域のつながりの希薄化により、子どもたちの健全な発育に必要な体験や、多様な人との交流機会が減少している。その受け皿として期待される「子ども食堂」が各地で地域の善意により立ち上がっているが、食材の安定的な確保や保管、衛生管理などがネックとなり、中には運営を辞めてしまう食堂もでてきており、地域の善意を支える仕組みづくりが求められている。



取組の概要

「子ども食堂」の安定的な運営を支援する「ふくおか筑紫フードバンク」を立ち上げ、下記の取組を行っています。

- 協力会員（寄附を定期的に行う企業）や個人からの食材の寄附を受入れ、適切に保管・管理し、筑紫地区の子ども食堂に安定的に分配・供給を行う。
- 情報共有及びお互いに支え合える関係づくりを目指し、子ども食堂運営団体をネットワーク化した連絡会議を年2～3回実施。



- 食材等の寄附を一括して受入・管理・分配することで、各子ども食堂の継続的・効果的な運営支援が可能
- フードバンク事業を無理なく継続するため、支援エリアや受入食材を限定エリア…筑紫地区～大野城、春日、太宰府、筑紫野、那珂川～
食材…食事の基本となるごはんとお味噌汁を中心に、加工や保管のしやすいもの
- 子ども食堂をネットワークした会議では、フードバンク運営方法や、調理時の安全管理などの学習、子ども食堂運営課題の解決に向けた意見交換などを行い、食堂の質の向上に取り組んでいる
- 企業にとっては、規格外商品を寄附することで食品ロス削減につながると同時に、子どもの支援という社会貢献に繋がり、HPで企業名を公開することで企業のイメージアップを図っている





成果

- ・フードバンクを立ち上げてから平成 29 年 11 月までの間
- ・6274.8kg (370 万円相当) の食材の寄附があった
- ・支援する子ども食堂運営団体 (利用会員) は 18 団体
- ・延べ食材寄附者は 39 社 40 名、うち 17 社からは定期的に寄附いただいている



今後の展開

本事業を実施するなかで、2つの課題が見えてきたため、事業を継続しながら、それらの解決に向けても取り組んでいく。

<課題 1> 子ども食堂の継続するための協働の取り組みの充実

今後、子どもとの関わり、食中毒やアレルギー対応などの安全管理の取り組みなど子ども食堂の運営ノウハウの共有化、寄附やボランティアの確保などは子ども食堂のネットワークを活かした協働の取り組みを行う。

各子ども食堂で地域の方による学習支援、調理体験、子育て相談を行うなど運営面の工夫が行われている。協力企業などの食育プログラムと連携した子ども達の体験機会を増やすことを検討する。

<課題 2> 運営資金の獲得

子ども食堂支援を目的に立ちあげた事業のため、支援先である子ども食堂から会費をとることは目的に反するので、実施していない。現在は事務局を担う (特活) チャイルドケアセンターの自己資金及び寄附金を運営資金に充当している。

今後、法人として認定取得を目指すことで、寄附者が寄附控除を受けることができるようになるため、より多くの寄附を獲得 = 運営資金の獲得につながると考えている。



協働ポイント・エピソード

行政×NPO の協働による相乗効果

以前より行政からの業務を受託していたこともあり、顔の見える関係性ができていた。本事業では食材保管庫である冷蔵・冷凍庫購入のための補助金を行政が支出しているが、対外的な書類や規約の整理などへ助言をもらうことで、寄附企業に対する信頼性を高めることができています。

本事業におけるフードバンクについて

本来の“フードバンク”の意味は、「品質には問題がないが規格外のため流通させることのできない商品を、食事を食べられない人がホームレスなど主に貧困層に対し配布する活動」のことだが、本事業では単に「食べ物 (フード) を貯めるところ (バンク) という意味で使っている。

本来の意味での「フードバンク」とは違っているが、子ども食堂についても、貧困だけではなく居場所づくり、という意味を持ち始めている。

そこで、本事業におけるフードバンクでは、「子ども食堂支援」に特化したフードバンク」とし、支援先や事業の目的を明確にしている。

これにより、「子どもたちのためならば！」と、食品ロスではない＝正規の食材を寄附してくれる企業もいる。

寄附食材の分配だけではない、子ども食堂への支援方法

本事業では、安定的な子ども食堂の運営支援を行うため、食材の寄附だけでなく、子ども食堂運営団体同士のネットワーク構築や勉強会も支援している。

というのも、子ども食堂を運営していくためには食材が必要なのはもちろんだが、お互いの情報を知り、共有し、また適正な食材や料理方法を学ぶことが、より安定的な運営が可能になるためである。

勉強会では、エフコープ生活協同組合の協力のもと、食の安全管理に関するノウハウ提供を行っている。

企業による地域貢献の形

食材を寄附した企業の中には、いままで子ども関連の支援活動を行ったことのない中小企業もあり、「食材を寄附することで支援ができるとは思わなかった。こういう形で地域に貢献することができてよかった」と喜ばれるなど、CSR活動を始めるきっかけになっている。

また、冷蔵・冷凍庫の保管場所を提供している西松建設においても、社員寮の食堂を、子ども食堂の開催場所として提供するだけでなく、運営にも社員の方が参加している。これにより、地域でボランティアを行う方と社員の方との間に顔の見える関係が構築されるとともに、このCSR活動で社内表彰受賞にもつながっている。

NPO 担当者より～今後の展望

本事業を通じて、たくさんの方からのご厚意、食材の寄附をいただき、それにより多くの子ども食堂を支援することができました。

今後は本事業を継続するとともに、子どもたちに様々な体験活動も提供していきたいと考えています。子ども食堂によっては 100 人以上が利用する場所もあります。食事を提供するだけでなく、いろんな経験、学びを得られる場所としても機能させていくことで、行政、NPO、企業による様々な地域貢献の形が出来上がるのではないかと考えています。